

ハウスミカンにおけるミカンキイロアザミウマの発消長						
<p>[要約] 12月加温型のハウスミカンにおけるミカンキイロアザミウマは5月上旬から7月上旬に多く発生する。ハウス周辺でもこの時期に多く発生し、ハウス内部へ侵入する。果実への寄生は着色開始から収穫期まで認められ、着色が進んでからの被害が大きい。</p>						
長崎県果樹試験場・病害虫科	専門	作物虫害	対象	果樹類	分類	指導
平成10、11、12年度 長崎県果樹試験場業務報告						

[背景・ねらい]

近年、ハウスミカンでミカンキイロアザミウマが多発生し、問題となっている。本種の効率的な防除法を開発するために、ハウス内における発消長を把握する。

[成果の内容・特徴]

- ① ハウス内における主な発生時期は3月中旬～4月上旬と5月上旬～7月上旬、7月中旬～9月上旬であるが、5月上旬～7月上旬の発生量が多い。ハウス周辺における発生も5月上旬～7月上旬にとくに多く、ハウス内の発生源は野外からの侵入によると思われる(図1)。
- ② 果実への寄生は着色が始まる6月中旬頃から収穫期まで認められる。果実における被害もほぼ同じ時期から発生するが、とくに着色が進んでからの被害が大きい(図1、図2)。
- ③ 薬剤による防除は着色6分頃から収穫期までの約1ヶ月間が重要となる(図2)。

[成果の活用面・留意点]

- ① 12月加温型ハウスミカンでの成果であり、加温時期が異なると果実への加害時期も変わる。
- ② 青色または黄色粘着板による発生予察が有効である。

